

宣教師文書にみるアメリカの対植民地朝鮮インテリジェンス活動

小林 聡明（日本大学法学部）

はじめに

(1)報告内容

①問題意識

・太平洋戦争期、アメリカは、どのように日本統治下にあった朝鮮に関する情報を収集し、分析していたのだろうか。

⇒アメリカの対植民地朝鮮インテリジェンス活動の一端に光をあてる

※「アメリカ」とは、どこの組織か、誰なのか

⇒インテリジェンス活動を担う機関と個人、そして、その共同作業という観点

②焦点をあてる二つの側面

・情報機関：情報調整局（COI）、戦時情報局（OWI）、戦略諜報局（OSS）

・東アジア研究者：

日本：フェアバンク、ファーズ etc.

中国：ゲイル etc.

朝鮮：ジョージ・マツキューン（George MacAfee McCune）

※宣教師家族による日本、中国、朝鮮情報の収集・分析

(2)研究課題

・マツキューンは、どのように COI に所属し、活動を行うようになったのか

・マツキューンは、どのように宣教師やその関係者らに聞き取り調査を行い、いかなる朝鮮情報を収集していたのか。

(3)ジョージ・マツキューンの経歴

1908 年：マツキューン、平壤に生まれる

1935 年：UC バークレー博士課程入学、研究活動を開始

1936～37 年：朝鮮でフィールドワーク（朝鮮時代の歴史研究）

1939 年：オクシデンタル大学歴史学部助教授

1941 年：UC バークレーで博士号（アジア史）取得

1941 年 7 月 11 日：COI 創設

1942 年 2 月：COI にて朝鮮情報の収集と分析

1942 年 6 月：COI、OSS と OWI に分割

～1943 年 8 月：OSS にて情報収集・分析業務に従事

1946 年：UC バークレー歴史学部講師、48 年、教授

1948 年 11 月：死去

※ 分析史料

・ OWI 文書、OSS 文書 + マッキューン文書

※ 参考

拙稿「太平洋戦争期アメリカ情報機関と G.M.マッキューン：1941 年 12 月～43 年 9 月－

COI/OSS における宣教師らからの朝鮮情報収集活動に焦点をあてて」『朝鮮史研究会論文集』58、2020 年 10 月

『文化冷戦と知の展開』森口由香、川島真、小林聡明編、京都大学学術出版会、2022 年 10 月（予定）

1. COI 要員としてのマッキューン

(1) マッキューンと COI の接点

1941 年 9 月：ゲイル（ノースウェスタン大学政治学部中国史担当）、COI からの協力要請
に応じ、COI コンサルタントに就任

1941 年 12 月：マッキューン、フェアバンクに書簡（朝鮮に関する提言・提案）

1942 年 1 月：ゲイル、フェアバンク宛の前述書簡に対して、マッキューンに返信

⇒朝鮮情報の提供要請（李承晩や韓吉洙のほか、重要な朝鮮人指導者の評価）

※朝鮮人、アメリカの軍事作戦にとって非常に有益との認識

⇒太平洋戦争勃発直後、「肩入れ」すべき朝鮮人指導者に関する COI の判断不足

1942 年 1 月 12 日：マッキューン、ゲイル宛書簡の伝達

※ゲイル、マッキューンからの情報の質に満足、自らの知的好奇心も刺激される

1942 年 1 月 15 日：ゲイル、マッキューン宛の書簡

- ・ 情報提供への謝意
- ・ 朝鮮人が、アメリカの軍事作戦できわめて有益

※ゲイルーマッキューン：意見交換（李承晩、高評価/韓吉洙、低評価）

(2) マッキューンの積極的な協力姿勢

1942 年 1 月：COI 極東課、マッキューンに COI 要員として緊急招集伺い

1942 年 2 月上旬：マッキューン、ワシントン DC に向かうことを決断

1942 年 2 月 24 日：COI 要員として任務開始

1943 年 2 月 1 日：OSS 分析部極東課にて上級科学分析官

1943 年 3 月 1 日：同課にて上級調査分析官

- ・ 朝鮮情報や分析者の不足
- ・ マッキューンの情報収集や分析能力に対する COI 側の高評価
- ・ マッキューン自身の政府への積極的な協力姿勢

(3)COI での活動開始

①報告書の作成

1942 年 3 月：レマー極東課長、マッキューンに朝鮮の承認に関する報告書作成を指示

1942 年 4 月：報告書『日本に敵対する朝鮮人支援の可能性』

- ・ 大韓民国臨時政府の法的承認に代わる案、盛り込めず

※今後の課題

- ・ 中国における朝鮮人の状況調査
- ・ 在米朝鮮人の調査
- ・ アメリカや中国から朝鮮に向けられる放送の可能性

②聞き取り調査の開始

1942 年 4 月末：「依頼状」「質問票」の検討・作成

※原型、MIS が極東専門家に送った二つの様式をもとに作成

1942 年 5 月：マッキューン、知人の宣教師らに依頼し、宣教師リストの入手

1942 年 5～6 月：朝鮮からアメリカに帰国した宣教師に「依頼状」「質問票」を送付

※参考文献の送付（宣教師宛）

- ・李承晩 "Japan Inside Out : The Challenge of Today" 1941年
- ・"How Japan Plans to Win" 韓吉洙訳 1942年（『三国同盟と日米戦』（松尾樹明著、霞ヶ関書房、1940年年）

2. 宣教師らへの聞き取り調査

(1) 宣教師からの情報

1942年7月～：宣教師からの返信が届き始める

- ウィームズ（Clarence Norwood Weems, Sr）：
- グリーン（Willie Bernice Greene）：

(2) グリップスホルム号の帰還者からの情報提供

- 朝鮮からの帰還
- マッキューンによる調査
 - ・宣教師およびその家族、技術者、事業家 ⇒ バクストン OSS 副長官宛報告書
- ①アダムス（Edward Adams, 1895-1965）：宣教師
- ②スミス夫妻：
- ③H.H.アンダーウッド（Horace H. Underwood, 1890-1951）：長老派宣教師
- ④H.G.アンダーウッド Jr.（Horace Grant Underwood Jr. 1917-2004）：長老派宣教師
- ⑤インガーソン（Vera F. Ingerson, 1890-1967）：北朝鮮・宣川の長老派看護師
- ⑥ルッツ（Dexter Nathaniel Lutz, 1890-1985）：長老派宣教師

おわりに

- COI とマッキューンの結びつき
 - ・日中戦争から太平洋戦争にいたる過程で活発化した東アジアに関する情報収集や分析
 - ・学術界への協力要請、日本・中国専門家に比べ、朝鮮専門家の確保困難
 - ・マッキューンの積極的な協力姿勢
- ※政府と研究者による戦争協力体制の構築
- マッキューンの関心の所在
 - ・政治情報

第 44 回諜報研究会：2022 年 7 月 16 日

- ・ 朝鮮の軍事や経済、インフラに関する情報
- ・ 朝鮮人の状況

※マッキューンによる朝鮮に関する専門知の蓄積

- ・ 宣教師家族としての朝鮮での経験
- ・ インテリジェンスおよびポリシー・メイキングの経験
- ・ アカデミアでの経験